

ヒドロ虫に着床した底生有孔虫群の浮遊生活期の証拠と分散ストラテジー Benthic foraminifers on the observational buoy: Evidence of the meroplankton stage in their life

木元 克典^{1*}, 長谷川 四郎², 並河 洋³, 喜多村 稔¹, 川上 創¹, 本多 牧生¹

Katsunori Kimoto^{1*}, Shiro Hasegawa², Hiroshi Namikawa³, Minoru Kitamura¹, Hajime Kawakami¹, Makio Honda¹

¹ 独立行政法人海洋研究開発機構, ² 熊本大学, ³ 国立科学博物館

¹Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, ²Kumamoto University, ³National Museum of Nature and Science

底生有孔虫の分散過程を知ることは、異なる環境への進出メカニズムや生物地理区など基本的な生物現象を知る上で重要であるが、その実際はほとんど分かっていない。我々は北西太平洋亜熱帯外洋域の定点観測点 S1 (Stn. S1; 北緯 30 度、東経 145 度、水深約 6,000m) に 2011 年 8 月より 1 年間係留した物理観測用の POPPS 係留系および、生物地球化学 (BGC) セジメントトラップに付着して生息している有孔虫群を発見したのでここに報告する。これらの有孔虫はヒドロ虫 (Hydrozoan) を足場とし、体表面に付着して生息していた。ヒドロ虫には 2 種類が存在し、無鞘目 Athecata と有鞘目 Thecata に属し、それぞれクラバ科とウミサカズキガヤ科の一種であることが判明した。これらの体表に付着していた有孔虫殻は底生および少量の浮遊性有孔虫から構成されており、その殻のいずれにも細胞質が充填していたことから、ヒドロ虫のキチン質の鞘表面で生存していたものと推測される。底生有孔虫の種数は 14 種が同定できており、これらの多くは浅海性かつ固着性の底生有孔虫であった。さらには外界の微細粒子を付着させ、自身の殻を形成する膠着質底生有孔虫も含む。本研究で得られた底生有孔虫群は、その生活環の一部に浮遊するステージを持つ可能性を示す証拠であるといえ、底生有孔虫の生態戦略、分散過程を考察する上で重要な示唆を与える。

キーワード: 底生有孔虫, 膠着質底生有孔虫, 浮遊生活期, ヒドロ虫, 太平洋

Keywords: Benthic foraminifera, agglutinated foraminifera, meroplankton, Hydrozoan, Pacific Ocean